

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立平井南小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	80.0%	80.0%
令和 7 年度の目標	72.0%	72.0%
令和 6 年度の結果	67.0%	66.0%
令和 5 年度の結果	67.0%	65.0%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	60.0%	55.0%
第 5 学年	65.0%	67.0%
第 4 学年	67.0%	68.0%
第 3 学年	70.0%	72.0%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・校内研究を柱として授業の改善を図る。校内研究の主題に掲げる「自分の思いや考えをもち、相手に伝えることができる児童の育成」を実現するために、教材文等を的確に読み取ること、自分の考えに根拠をもてるようにすることを目指し授業作りを行う。 ・授業の中で、自分の考えや振り返りと書く時間を設定し、学習の流れを整理したり、理解を深めたりすることができるようにする。 ・「問題」に対して「答え」、「めあて」に対して「まとめ」のように視覚的に分かりやすい板書計画の徹底を校内で図る。	・東京ベーシック・ドリル診断シートを年3回実施する。また、江戸川区学力定着度調査の分析等を生かして定着率10%アップを目指す。 ・読書科の授業や週2回の朝読書の時間、読書科コンクールを実施し、意欲的に学習する児童を育成する。 ・読解力向上を目指し、朝学習の時間等を活用したYOMUよむワークシートの実施を週1回以上設定する。	・エドダブルールを徹底し、ミライシードのドリルパークを全校で実施する。 ・年3回のStudy weekを核とし、学年×10+10分間の家庭学習の促進を図る。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・校内研究を軸としながら、巡回教員との連携を密に取り、支援の手立てを明確化して授業に取組む。 ・当該学年に限らず、習熟度に合わせた問題に取組ませ、自信をもって答えられるようにする。	・C層D層の児童を中心に、児童のサポートを行う。EDOスク指導員と連携して実施し、個に応じた指導を行うことで特に算数の基礎基本の定着を図る。	・ドリルパークに毎日取組ませ、主体的に学習に取組む態度を高める。 ・ドリルパークの取組み状況や達成状況を振り返る時間を設定し、家庭学習の意欲につなげる。
成果指標	・記述式の平均正答率70%以上。 ・全国学力・学習状況調査の「児童・生徒質問紙」における「国語・算数の授業内容はよく分かりますか」の設問に対して肯定的な回答80%以上。	・東京ベーシック・ドリル診断シート平均定着率70%以上。	・全国学力・学習状況調査の「授業時間以外の勉強時間」1時間以上と回答する児童の割合90%以上。 ・年間読書目標 低学年100冊 中学年3000ページ 高学年6000ページ